

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2016～2021

課題番号：16KT0184

研究課題名（和文）グローバル・バリュー・チェーン革命の功罪とガバナンス体制に関する研究

研究課題名（英文）Pros and Cons of Global Value Chains: What Kind of Global Governance do We Need?

研究代表者

岡本 由美子 (Okamoto, Yumiko)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：00273805

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、発展途上国を対象にグローバル・バリュー・チェーン（GVC）革命の功罪を実証的に明らかにし、SDGs達成のための新たなガバナンス体制を模索することであった。

その結果、アジアに比べてアフリカ、とりわけ、一次産品を生産する小規模農家にとっては、GVC革命の罪のインパクトが大きいことが明らかとなった。かつ、自由貿易に代わるフェアトレードや有機認証といった、サステイナブル認証が途上国の貧困削減に果たす役割が大きいことが明らかとなった。さらに、同じ認証制度でもジェンダー視点をとり入れた方がより効果が高いことも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は3つある。まず一つ目は、グローバル・バリュー・チェーン（GVC）革命の負のインパクトの存在を理論的・実証的に明らかにしたことである。特にアフリカの多くの一次産品の小規模生産者にとっては、負のそれも無視できない。2つ目は、国際NGOが運営するフェアトレードを含むサステイナブル認証制度は、WTO体制を補完する新しい通商ガバナンスの一角を成しうることを実証的に明らかにしたことである。

3つ目は、2015年の9月の国連総会で全会一致で決定されたSDGs達成のためには、どの目標の達成においてもジェンダーの視点を取り入れることが重要であることを明らかにしたことである。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research was to summarize pros and cons of the Global Value Chains (GVCs), and to propose a new form of governance in order to remedy the problems that may have arisen due to the formation of the GVCs and to subsequently achieve SDGs on the global scale.

First of all, the paper found that the negative impact of the GVCs was significant among small-scale producers of the primary commodities especially in Africa. The paper also found that certificates and standards (S & C) such as fair trade and organic, an alternative to free trade, can play an important role in solving the issue of poverty among such small-scale farmers. Those S&C are nowadays called sustainable ones, and they are governed by international NGOs such as Fairtrade International. Finally, the paper also found that social impacts of S&C such as Fairtrade tend to be larger when a gender perspective is also introduced in S&Cs explicitly.

研究分野：国際経済、国際開発

キーワード：GVC フェアトレード サステイナブル認証 ジェンダー平等 SDGs 貧困削減 グローバル・ガバナンス グローバル・パートナーシップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、急速にグローバル化が進んでいる。その象徴とも言うべき現象がグローバル・バリュー・チェーン(GVC)革命である。生産活動を俯瞰する付加価値の連鎖が国境を越えてグローバルな規模で展開されることにより、生産活動が1つの国で完結する伝統的かつ単線的なモデルから、多くの国を巻き込んだネットワーク型のモデルに大きく変化している。GVC革命の到来を礼賛する研究がある一方、グローバル社会に新たに生じつつある格差問題、及び、リスクや不確実性の国境を越えた伝染効果を危惧するなど、GVC革命は新たなグローバル・イシューを生み出しているという研究成果が生まれつつある。また、それらGVC革命から生じているグローバル・イシューは、既存の国際経済体制だけではもはや対処できず、その解決のためには新しいグローバル・アプローチが必要であるとの認識が生まれつつある。

ただし、これまでの学術研究は、どちらの見解においても、詳細な実証分析に欠けている。そもそも、GVCへの参画によってどの程度、経済発展効果が見込めるのか、また、新たな格差問題やリスクがどの程度発生し、どの程度深刻な伝染効果が生じるのか、明らかにされていない。また、GVC革命を持続的な開発に繋げるための政策体系、及び、それら政策を遂行するための新しいグローバル・アプローチはどうあるべきか、ほとんど研究がなされていない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、2016年度から2020年度までの5年間で、発展途上国(以下、途上国と省略)を対象にGVC革命の功罪を実証的に明らかにし、新たなグローバル・イシュー解決のためのガバナンス体制を模索することであった。具体的には、本研究で、以下の4点を行うことであった。

- 研究目的1. GVC革命が途上国の経済発展に与えるマクロ的な影響を実証的に明確化。
- 研究目的2. GVC革命による新しい格差問題の発生確率とそのメカニズムの解明。
- 研究目的3. GVC革命によって途上国が直面する新たなリスクの種類とそのインパクトの推計。
- 研究目的4. GVC革命に対応した新しいガバナンス体制の模索。

なお、新型コロナウイルスの影響で、アフリカでの現地調査に遅れが生じ、研究期間が2016年度から2021年度の計6年間となった。

## 3. 研究の方法

分析的枠組みとしては、グローバル・バリュー・チェーン(GVC)研究の中でも、以下の3つの種類の研究成果を基に、構築した。一つは、UNCTAD(2011)、及び、Fujita and Hamaguchi(2016)論文である。両研究成果は、GVC革命の正のみならず負の側面についても、まとめている。GVC革命はモノやサービスの工程間分業の世界規模での配置最適化を可能にしたことで生産効率が高まり、より安い価格でモノやサービスが消費者に届くようになった、という正のインパクトをもたらしたことは間違いない。一方、本2つの論文は、工程間分業の中でも低付加価値工程の生産にロックインされてしまうロックイン効果、及び、様々な種類の新たなグローバル・リスクの発生という、負のインパクトが生じる可能性も指摘している。

2つ目は、ロックインされてしまうかどうかは、GVCがどのような力関係(power relationships)に支配されているのか、によるという、Humphrey(2019)の研究成果、及び、発展途上国がGVCに参入した場合、その後、どのように持続的に経済発展していけるのか、その形態について論じているHumphrey and Schmitz(2002)である。

3つ目は、GVCの中で途上国が持続的な発展をしていく可能性として、自由貿易に代わるフェアトレード等の認証制度の重要性を指摘する論文である(Henson and Humphrey 2010)。2015年9月、国連総会でSDGsが採択されたが、その達成のために、フェアトレードに代表されるように、自由貿易に代わる、又は、自由貿易体制を補完する役割として、サステナブル認証制度が近年注目を浴びるようになった。サステナブル認証の場合、政府ではなく国際NGOがその導入から運営に携わっている場合が多く、新しいグローバル・ガバナンスの在り方として注目されつつある。

フェアトレード等の認証制度がもたらす社会的インパクトの効果分析に関しては、研究計画書作成当時は予定していなかったが、まずは、ロジックモデルを作成し、それに基づいて、インパクト評価手法を用いながら、分析を行った。

Fujita, M., and Hamaguchi, N. (2016), "Supply Chain Internationalization in East Asia: Inclusiveness and Risks", *Papers in Regional Science*, 95(1), 81-100.

Henson, S., and Humphrey, J. (2010), "Understanding the Complexities of Private Standards in

Global Agri-Food Chains as They Impact Developing Countries”, *The Journal of Development Studies*, 46 (9), 1628-1646.

Humphrey, J., and Schmitz, H. (2002), “ How Does Insertion in Global Value Chains Affect Upgrading in Industrial Clusters? ” *Regional Studies*, 36 (9), 1017-1027.

Humphrey, J (2019), “ Introduction. ” In J. Humphrey (ed.) *Global Value Chains*, xii-xxxi, An Elgar Research Collection.

UNCTAD (2013) *World Investment Report 2013—Global Value Chains: Investment and Trade for Development*, UNCTAD.

#### 4 . 研究成果

研究の成果としては、以下の4つが得られた。

##### (1) アジアとアフリカの違い

GVC 革命の功罪は、まず、アジアとアフリカで大きく異なることが明らかとなった。Okamoto (2016) が明らかにしたように、GVC 革命は、グローバル・リスクの問題には常に注意を払うべき必要があるものの、ASEAN を始めとした東アジア諸国に貿易と投資の好循環をもたらし、その結果、同地域は世界の成長センターとしての役目を担うようになった。

しかし、アジアと異なり、アフリカ諸国は GVC 革命や自由貿易・投資政策の恩恵を享受できなかった。世界で GVC 革命が展開する中でのアフリカ諸国が抱えている問題・課題や今後のあるべき政策について、Okamoto(2018)、岡本(2019)が明らかにした。Boldwin 教授は、アフリカの問題はアフリカ諸国が GVC 革命に参加できず、世界経済の中でマージナルな存在になってしまったことだとするが、Okamoto(2018)は、アフリカ、特に、貧困にあえぐ一次産品の生産に従事する大多数の小規模農家の問題は、GVC 革命の外ではなく、天然資源を巡る GVC の中にロックインされてしまっていることであることを明らかにした。

##### (2) GVC のロックイン効果とグローバル・ガバナンスとの関係

Okamoto (2020)は、ウガンダの高品質なコーヒー(アラビカ種)の生産地として有名なウガンダ東部のムバレ地区に立地する小規模有機農家組合(BOFA)を例にとり、如何に、多くの小規模農家が GVC の中で最も低い付加価値しか生み出せない生産工程にロックインされてしまい、その結果、‘貧困のわな’から抜け出せないか、そのメカニズムを明らかにした。

また、GVC のロックイン効果とグローバル・ガバナンスとの関係も Okamoto(2020)は明らかにした。1990 年代に入り、世界では自由貿易・投資政策が益々、世界規模で推進された。発展途上国も例外ではない。ウガンダは IMF や世界銀行から融資を受ける代わりに、非常に多岐にわたる貿易・投資自由化政策を導入した。また、この流れは、地球規模では、WTO 体制が 1995 年に発足することで強化され、自由な貿易や投資がさらに、推進されることになった。世界規模で見れば一次産品の GVC の生産、流通、販売の経済効率は高まった可能性があるが、市場構造上(多国籍企業が一次産品の調達、流通、精製、貿易取引に深く関わっている)、コーヒーを代表とする一次産品の多くの小規模生産者は益々、低付加価値の生産工程にロックインされてしまい、自由貿易・投資の恩恵がこれら生産者に届かない実態を Okamoto (2020) は明らかにした。

##### (3) 自由貿易に代わるフェアトレードの意義

1990 年代後半以降、WTO 体制の下、世界の貿易や投資の自由化が進展していくにつれ、自由貿易に代わるフェアトレードを推進する国際 NGO があらわれた。その代表格の一つが、現在の Fairtrade International である。Okamoto(2020)は、フェアトレードを含む国際認証(最近では、サステナブル認証と呼ばれる)の意義についても、理論的、実証的に明らかにした。

国際認証、とりわけ、フェアトレードの認証の役割は、主に2つあることが明らかとなった。一つ目は、小規模農家が組合を結成し、集団で国際認証を取得し、それをある種の知的財産として、集団で国際バイヤーと交渉ができることである。つまり、既存の GVC からロックアウトし、自ら、別の GVC に入る選択肢が生まれることである。これによって、小規模農家が GVC によって生み出される総付加価値の取り分が増えるのである。

もう一つは、これまでの GVC からロックアウトされたことで、別の成長機会が生まれることである。

フェアトレード等の国際認証にも様々な問題課題が存在するものの、多国籍企業が主導する GVC に対する選択肢を用意し、かつ、小規模農家自らの手で成長できる可能性があることを本研究は理論的、実証的に明らかにした。政府の代表が集まって決める WTO 体制に代わる、またはその不備を補完するガバナンスとして民間団体が運営する国際認証制度が考えられるようになった。その意味では、これら国際認証制度は新しいグローバル・ガバナンスの在り方を提示してく

れているといえよう。

#### (4) ジェンダーの視点の重要性

Okamoto(2022)は、国際認証制度といえどもジェンダー視点を欠いている場合は、貧困削減を含む SDGs 目標達成に十分貢献しない可能性があることを、社会的インパクト調査を通して明らかにした。国際認証制度の中で最も世界的に知られているのがフェアトレード認証であるが、女性小規模農家が組合員の伴員としてではなく、女性自身が組合員として参加した方がより質の高いコーヒーの生産、及び、男性と同等なトレーニングやその他の活動等への確実なアクセスを通じてジェンダー平等が達成できることが明らかとなった。つまり、同じフェアトレードといえども、ジェンダー視点を取り入れたフェアトレード運動の方が SDGs 達成という点において社会的インパクトがより大きいことが明らかとなった。

当初の研究計画の中では、ジェンダー視点を取り入れた GVC 革命の分析は予定してなかったが、本研究を通して、自由貿易であっても、フェアトレードであっても、貿易政策はジェンダー・ニュートラルではない可能性が高いことが明確となった。コロナ禍ということもあり、委託調査では、サンプル数を制限せざるをえなかった。より詳しい貿易のジェンダー分析は今後の研究課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岡本由美子	4. 巻 19
2. 論文標題 グローバル・バリュー・チェーン革命の功罪 アフリカの持続可能な開発は可能か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同志社政策科学研究	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2018.0000000253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okamoto, Yumiko	4. 巻 18
2. 論文標題 Opportunities and Challenges Facing the ASEAN in Linking Connectivity and Sustainable Development	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Doshisha Policy and Management Review	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2017.0000014673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okamoto, Yumiko	4. 巻 22
2. 論文標題 Do Standards and Certificates Support Upgrading and the SDGs in Global Value Chains? The Case of the Uganda Organic Coffee Farmers' Association	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Doshisha Policy and Management Review	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00027469	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okamoto, Yumiko	4. 巻 24
2. 論文標題 A Gendered Analysis of Fairtrade and Organic Standards and Certificates: The Case of the Uganda Organic Coffee Farmers' Association	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Doshisha Policy and Management Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岡本由美子
2. 発表標題 国際認証のしくみは途上国の持続可能な開発に資するのか？ ウガンダの小規模有機農家組合を例にして
3. 学会等名 同志社大学政策学部政策学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okamoto, Yumiko
2. 発表標題 Do Standards and Certificates Support Upgrading and SDGs in Global Value Chains? The Case of the Ugandan Organic Coffee Farmers' Association
3. 学会等名 Japan Society for Afrasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岡本由美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 一般財団法人 国際貿易投資研究所 (ITI)	5. 総ページ数 6ページ (担当章)
3. 書名 第6章「東アジアの再考」『アジア太平洋経済と通商秩序 - 過去、現在、将来 - 【山澤逸平先生追悼論叢】 ~その2~』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------